四四二一番

我が行きの　息づくしかば　足柄の　峰這ほ雲を
見とと偲はね

四四二二番

我が背なを　筑紫へ遣りて　愛しみ　帯は解か
なな　あやにかも寝も

四四二三番

足柄の　み坂に立して　袖振らば　家なる妹は
さやに見もかも

四四二四番

色深く　背なが衣は　染めましを　み坂給らば
まさやかに見む